



「南稜の私が伝えたい事」

コーナー



物思いにふける？



3月のある朝、うちのワンコは、昇る朝日をじっと見つめていました。

何を思っているのか、背中に哀愁が漂っていました。この後、おやつをあげると、喜んで食べたので、ホッとしました。

投稿：植田のリリーさん

佛鑑寺(佛餉)の『大般若経典』

【大般若経典】

元禄15年(1702年)に金25両で購入したと云われる「大般若経典」が、佛鑑寺に所蔵されている。毎年4月の第一日曜日開催の毘沙門天大祭の場において、近在の臨済宗妙心寺派7寺の僧侶に依って転読会が営まれる。



般若心経典とは、唐の玄奘三蔵(西遊記の三蔵法師)がインドの原文を中国語に翻訳したもので、



総数は74部1338巻(うち大般若経典は600巻)。玄奘29歳のときインドに赴き、経のサンスクリット原典を請来し45歳で帰国。大般若経の翻訳に着手したのは58歳。この作業に3年を要し完了したが、翌年冷病(呼吸器病)がもとで死去。会葬者は100万人に上ったという。



【佛鑑寺(義徳山毘沙門堂)】

本尊は「毘沙門天」。地元では“毘沙門さま”と敬称しており、現在の本堂は、1860年に再建されたもの。

往古、東佛餉(野依町東屋敷)地内の山林の一角(現在の墓地・土葬場辺り)に、霊峰山「佛鑑寺」があった。1600年頃に兵火に遭い焼失し廃寺となった。時は流れ、享保年代の初頭、夜な夜な青白く光る不可解な現象が起きた。其れを見た宇婆塞(うばそく：正式な僧とはならず、山林などで仏教の修行をする男子)こと孔正義徳が当地を掘削したところ、地中に毘沙門天像を発見。後に、堂宇を建て安置。享保15年(1730年)に現在地(西屋敷80番地)へ移転。以来、義徳さんの名を取り「義徳山毘沙門堂」と称した。昭和17年宗教法実施に伴い、旧名の「佛鑑寺」となった。

投稿：ルポライター 野依のM・Y